

杉原盛重

すぎはら もりしげ

誕生 大永元年(1521年)杉原匡信の次男として生まれる。

備後国の国人・杉原理興(後に山名姓を名乗る)の家老で大内氏と争った神辺合戦で活躍した。

35 歳 大内氏の勢力を継承した毛利氏の傘下となった理興が弘治3年(1557年)に継嗣のないまま死去すると、盛重はその勇猛ぶりが毛利氏重臣である吉川元春に評価され理興の跡を継いで備後国神辺城主となった。

その後、毛利方の武将として各地を転戦するが、盛重の杉原家相続に異を唱えて下野した理興の旧臣藤井皓玄により盛重留守中の神辺城が占拠される事態もあった。なお、この謀反はすぐに鎮圧され藤井

45 歳 皓玄は備中国に逃亡し自刃している。

永禄7年(1564年)尼子氏との戦いでは、山中鹿介のライバルとして活躍し西伯耆の要衝である尾高城を与えられるが、永禄12年(1569年)には尼子家再興を目指す山中鹿介に一時城を奪われることもあった。

51 歳 元亀元年(1570年)10月8日、尼子軍と清水寺で戦い勝つ。翌2年(1571年)3月19日、盛重不在の尾高城が攻められるが、盛重は帰城していて700の兵に羽倉氏は滅ぼされる。

58 歳 天正6年(1578年)4月、吉川元春は杉原盛重や諸将を率いて別所長治の救出と上月城の攻撃に向けて出発する。

58 歳 天正6年(1578年)5月14日、盛重は山中鹿介の上月城を攻撃する。

天正6年(1578年)5月28日、盛重、台無鉄砲を射ち込むが、鹿介らに谷底に落とされる。

60 歳 その後、盛重は東伯耆の要衝八橋城を与えられ、天正8年(1580年)に南条宗勝の子で織田方に寝返った南条元統やその弟である小鴨元清の攻撃を受けるが撃退した。

61 歳 しかし、翌天正9年(1581年)、伯耆国における毛利氏の拠点である鳥取城が羽柴秀吉に落とされた2ヶ月後に病死した。

天正11年(1583年)5月25日、盛重の死後、家督を継いだ嫡男元盛に次男景盛が反発し景盛が元盛を殺害するに至るが、毛利氏は景盛の相続を認めず所領は吉川元春によって没収された。

<参考>

「杉原盛重」(立石定夫)

「杉原盛重」年表(立花書院)

